

かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第11号
平成29年3月8日
校長 奥田 修也



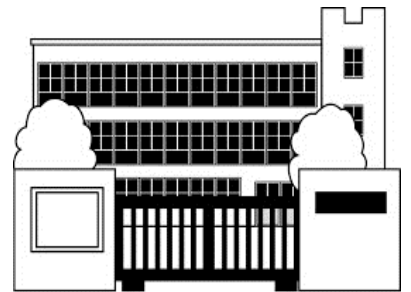
修了の時期にあたって

校長 奥田 修也

3月15日の修了式をもって、北京日本人学校の1年間の教育活動が終了いたします。大きな事件がなく、児童生徒一人一人が健康で充実した学校生活を送ることができましたのも、保護者の皆様や日本人社会の方々のご理解とご協力のたまものと深く感謝申し上げます。ただ、いくつかの校内でのケガに関しては、ご本人やご家庭の皆様にもご迷惑とご心配をおかけしたことを反省しております。来年度は校庭を人工芝に替えるとともに、より安全を期した教育活動に配慮し少しでもケガを減らすようにしていきたいと思っております。

さて、この1年を振り返りますと、たてわり班で活動した頤和園での全校遠足から始まり、運動会や学習発表会では、伝統の良さを守りながらも、一人一人の個性を發揮し、感動的な学校行事を創り上げてくれました。そして、現在準備にかかっています卒業式に向け、まさに子どもたち一人一人のパワーが全開した1年間だったと思っております。

前庭に新しく植えたソメイヨシノが入学式を待たずに満開だった春、遊具広場の緑鮮やかな芝生が太陽に輝いていた夏、四得公園の銀杏の黄色と紅葉の紅が見事なコントラストを見せていた秋、そして、登校時8時前になってもまだほの暗い日もあった冬。そんな1年間を通して、子どもたちは大きく成長しました。身長体重も一回りも二回りも大きくなり、心も強く豊かになったのではないのでしょうか。特に中学部の生徒たちは時に頼もしく、大人の持つ鋭い一面すら垣間見ることができました。それぞれの学級の学級だよりに載せられている子どもたちの作文や日記をみていますと、1年の間に、いえ、ひとつの学期の間にも子どもたちは文章力だけではなく、ものの見方までどんどん成長していっていることが読み取れました。また、おたよりを書いている担任ならずとも読んでいる私までうれしくなる 때가よくありました。このような力をつけた子どもたちなので、修了を機に日本や他の国の学校に進学・転出していくことがあっても心配はないと思っております。はじめは慣れないことがあったとしても、北京日本人学校で身につけた力を發揮し、自分の力をきっと伸ばしていくことでしょう。



さて、修了式の日、学校としては教育活動の成長の足跡として通知表をお渡しするわけです。通知表は評定の○の数を数えることも大切ではありますが、じっくりお読みいただき、それぞれががんばった証しとしての「1年間の成長の足跡」をぜひ読み取ってあげてください。そして、おうちの方の言葉でお子さんの成長を語り、祝ってあげてほしいと思っております。子どもたちは大きな自信と深い愛情を感じるに相違ありません。それが、新年度への新たなエネルギーになると考えます。

ところで、3月15日には教員の離任式も行います。今年度は10名の教員がこの北京日本人学校を去っていきます。10名は年齢やキャリアはそれぞれ異なりますが、誰もがこの学校の子どもたちを愛し、それぞれの立場でがんばってくれました。ある学級だよりの生徒の日記に「〇〇先生にほんとお世話になって。。。」とありましたが、これを読んだときにもうれしくなりました。手前味噌のようで恐縮ですが、私自身今年度スタッフに恵まれて仕事のできた喜びを今感じております。

いろいろな場所から教職員が、子どもたちが、多くの保護者の方たちが、そして、運営理事さんをはじめとする本校を支えてくださる方たちが、この北京にやってきて出会い、時間をともにし、また別の場所へと旅立っていく。これが日本人学校の宿命で幾分寂しいことではありますが、「いつかまた」とさわやかに別れていけることも日本人学校の良さです。実際また出会うという奇跡もけっこうあるものです。4月には新赴任の10名がまいります。私たち教職員も、子どもたちの成長を振り返りながらも、一人一人の課題を明らかにし、その改善に向けて来年度も丁寧に指導支援にあたりたいと思っております。新年度になりましても変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

卒業を前にして

小学部6年

6年生は、この1年間、小学部のリーダーとして努力してきました。たてわり班遊び、委員会活動などで1回ごとに頼もしくなっていました。学習発表会や運動会、修学旅行などの行事では、徐々に自分たちで考えたり行動したりする場面が増えました。大変さと同時に、自分たちで作りに上げたという喜びを味わうことができました。また、校外学習や交流学习では、日本と韓国、中国の関係について、より深く考えることができました。これらの経験が6年生の皆さんの栄養となって、これからの人生が豊かになっていくことを期待しています。



将来は、日本のみならず、「この地球のどこかで」輝いている人になってほしいと思います。自分に自信をもって、さらに大きく飛躍してください。

最後に、お子さんの成長を見守り続けるとともに、本校の教育活動にご尽力いただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

卒業を前にして

中学部3年



みなさんの教室の卒業式までのカウントダウンカレンダーの残りの日々がだんだん少なくなっていき、いよいよ卒業です。

さて、比叡山延暦寺に「一隅を照らす」という大きな石碑が立っています。天台宗を開いた最澄の「一隅を照らすこれ則ち国宝なり」の言葉です。色んな解釈がありますが、「一隅を照らす」とは、一人一人がそれぞれの役割をしっかりと果たし、人々や世の中に貢献することを意味するのでしょうか。つまり、「お金や財宝が国の宝ではなく、家庭や学校、職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも代えがたい貴い国の宝である。」ということです。一人一人が、それぞれの自分の置かれた場所で全力を尽くすことによって、社会全体が明るく照らされていきます。今後、日本をはじめ、世界で活躍するみなさん、温かく、優しい光を明るく照らし続けてください。

中学部の卒業式は、義務教育の修了と新しい世界へと旅立つ決意の時でもあります。それぞれの道で、自分を信じて、希望をもって力強く前進していきましょう。人は人生の節目毎に周囲の人たちから「おめでとう」と祝福され、成長していきます。改めて、ご卒業おめでとうございます。皆さんのこれからの人生に幸多かれ。

